

福 議 委 号  
平成26年11月19日

福島町議会議長 溝 部 幸 基 様

経済福祉常任委員会  
委員長 木 村 隆

所管事務調査報告書の提出について

本委員会は、平成26年9月19日福島町議会定例会9月会議において決定した、休会中の所管事務調査を終えたので、会議条例第147条の規定により、下記のとおり報告いたします。

記

調 査 事 件	(5) 所管関係施設・事業等の町内視察について	
調 査 期 間	平成26年10月28日・10月31日(2日間)	
出 席 委 員	10月28日(火)	10月31日(金)
	委員 長 木 村 隆 副委員 長 花 田 勇 委 員 平 沼 昌 平行 " 加 藤 雅 平行 " 藤 山 大 雄 " 平 野 隆 雄	委員 長 木 村 隆 副委員 長 花 田 勇 委 員 平 沼 昌 平行 " 加 藤 雅 平行 " 藤 山 大 雄 " 平 野 隆 雄
欠 席 委 員	なし	
委員外議員	議 員 滝 川 明 子	議 員 滝 川 明 子
職 務 出 席	議 長 溝 部 幸 基	議 長 溝 部 幸 基
席 説 明 員	副 町 長 竹 下 泰 弘 保健福祉課長 工 藤 泰 泰 住民生活課長 近 藤 勝 弘 認定こども園福島保育所園長 金 沢 峰 子 農 林 課 長 花 田 雅 昭 水産商工課長 金 谷 栄 一郎 水産商工課参事 川 合 力 哉 建 設 課 長 木 村 文 年	町 長 佐 藤 卓 也 副 町 長 竹 下 泰 弘 保健福祉課長 工 藤 勝 泰 住民生活課長 近 藤 勝 弘 認定こども園福島保育所園長 金 沢 峰 子 農 林 課 長 花 田 雅 昭 水産商工課長 金 谷 栄 一郎 水産商工課参事 川 合 力 哉 建 設 課 長 木 村 文 年
議会事務局職員	議 会 事 務 局 長 石 堂 一 志 議 会 グ ル ー プ 次 長 前 田 勝 広 議 会 グ ル ー プ 主 事 澤 田 元 気	議 会 事 務 局 長 石 堂 一 志 議 会 グ ル ー プ 次 長 前 田 勝 広 議 会 グ ル ー プ 主 事 澤 田 元 気

## **[委員会意見]**

### **調査事件 5 所管関係施設・事業等の町内施設について**

(平成 26 年 10 月 28 日・31 日調査)

本委員会が所管する関係施設・事業等の課題や問題点を把握するための町内視察及び町政執行方針の取り組み状況の確認を実施しました。28 日は午前中に、青函トンネル記念館の利用状況等、新緑公園整備事業、町道福島月崎幹線道路整備事業、町道赤川 1 号線（観音橋 3 号橋）、福島ファームブルーベリー圃場、林業専用千軒線開設事業、町試験ブルーベリー圃場を視察し、午後からナマコ人工採苗稚仔飼育状況、吉野地区船揚場 N02（消波ブロック）整備事業、ウニ種苗育成センターの運営状況等、福島町温泉健康保養センターの入館者等を視察調査し、その後検討会を行いました。

31 日は町政執行方針の取り組み状況の確認を行ったところであり、その結果における内容は次のとおりです。

#### **【論点とした調査項目】**

##### **1. 関係施設・事業等の町内視察**

###### **(1) 青函トンネル記念館の利用状況等について**

広域観光や他の施設などと連動させて観光客の入れ込みを図る姿勢は十分わかるが、トンネル記念館が一つの観光パーツとして最低限恥ずかしくない観光施設でなければいけない。

今回視察した中で、北海道新幹線の平成 28 年 3 月末運行予定が間直に迫っている時期にも関わらず、新幹線開業に関連した情報、展示・PRがないのは非常に残念でした。以前に展示していた展示物を始め、新幹線開業に関連した展示物も必要ではないかと考えます。

また商工会からの展示物（堀進機）撤去要望は、迎え入れる町の観光意識低下の表れでないでしょうか。そのような状態からも当記念館運営の状況は町の観光政策の一つとして、まったく本気度が感じられない状態であり、手遅れ感すら覚えることを認識して、早急な対応をしていただきたい。

またボランティアガイドも上記の問題をはじめ、当館の観光スタンスがしっかりしていないと新たにガイドをやっていただく方が生まれてこないのではと考えます。

###### **(2) 福島ファームブルーベリー圃場等について**

当圃場のブルーベリー一定植の目的は、農業者の所得向上を目指したものであり、その生産団体として福島ファームが組織され現在に至っています。しかし、現状における福島ファームの組織体制及び育成管理等は十分な状態にあるとは言えないと感じています。当該事業の目的を再確認し、基本的な作業(草刈り・剪定・収穫・販売等)を主体的に実行できる生産団体の育成強化を図ることが喫緊の課題と考えます。このことをきちんと整理できた段階で将来的に、観光農園やオーナー制も視野に入れた経営手法の検討をすべきものと考えます。また、町試験圃場の本年 8 月の台風による被害を教訓に、次年度以降の強風対策として防風ネット等の設置を検討し、福島ファーム圃場の強風対策に繋げる実証試験と位置付けデータ取りを進めていただきたい。

### (3) ウニ種苗センターの運営状況等について

当該施設は、浅海資源の増大を図り沿岸漁業の振興による育てる漁業への基盤強化を目的に、平成 8 年度から運営を開始しています。しかし、現状の海からの取水は、海水取水口施設の能力低下により、計画時毎分 3 トンが毎分 1 トンに低下しています。そのため、漁組ではアワビセンターと当該センターのどちらかに統合することを検討しているとのことであるが、町は漁組と将来の種苗生産の方向性を十分に協議し、慎重に判断して進めていただきたい。

### (4) 全体意見

論点とした上記 3 項目は、現在検討中の第 5 次福島町総合計画及び第 4 次福島町総合計画のローリングに密接に関連しているので、本委員会の意見内容を十分に精査のうえ、関係者とも協議しながらしっかりとした計画づくりを進めていただきたい。

## 2. 町政執行方針の取り組み状況

### (1) 水産関係

#### ① ナマコ、ウニ、アワビの種苗放流事業等について

今回示された資料のエゾバフンウニ種苗生産事業に係る水揚量は近年の海水の高水温化による影響から平成 23 年は禁漁、平成 25 年、平成 26 年は吉岡地区禁漁としたため極めて少ないものとなっています。海水の高水温化対策として平成 26 年度よりキタムラサキウニも放流しています。これまで、長年にわたり同じような種苗放流を行っているが、近年の海水温の上昇や前浜の現状等を確認した上で、現在の手法のままで良いのか漁組と学術的な視点も加え、検討していただきたい。また、ウニとコンブ種苗生産事業に関する経理(収支)状況を漁組と協議して明確にして示していただきたい。

## ②コンブ養殖施設調査について

調査結果に基づき、漁組及び養殖漁家としっかりと協議のうえ施設整備を進めていただきたい。特に、波浪による係留ブロックの転倒や移動の解消対策に万全を期し、今後の生産活動に支障の生じないように取り組んでいただきたい。

## (2) 農林業の関係

### ①黒米の販路拡大について

平成 25 年 7 月 10 日開催の本委員会の「議決した重要な計画の取り組み状況等について」の調査において、町長は黒米のグローバル展開の質問に対し、「まずは、今年中に海外の方に売り込む試みをしたいと思っています。今年駄目でも、来年、再来年と挑戦したいと考えています。」と答弁しています。しかし取り組みを確認する意見交換において、「当時アジアに商談会の話があったが経費や数量の問題で現在は検討していない」とのことです。町では黒米を特産品の一つとして普及拡大しようとしている中で、町長は自分の発言に責任を持ち行動すべきです。本委員会としても納得いく発言ではありません。生産会の皆さんが一連のやり取りを聞いていたらどう思うでしょうか。また、販路拡大に向けた組織体制の充実と黒米を使用した試食品の提供による積極的なPRに努めていただきたい。

### ②とうもろこし味来の販売について

現在、福島町とうもろこし生産組合の組合員は農協から苗購入代金の一部助成の支援を受けながら生産していますが、自ら負担し生産していくという生産者の意識改革と 6 次産業化に向けた取り組みを検討していただきたい。また、水産加工場と連携した 2 次加工の可能性についても検討していただきたい。

### ③地域材を使用した住宅建築への助成制度について

当該制度については、平成 27 年度からの開始を予定していることから、本委員会の所管事務調査として制度の内容等について議論していくものとします。

## (3) 商工業の振興

中小企業融資制度の利用件数が少ない状況にあることから、商工会とも連携の上、さらなる利用促進に向けたPR活動の展開に努めていただきたい。

## (4) 観光の振興

町長は福島町の観光に対するイメージをどのように持っているのかとの質問

に対して、「福島町の持っている自然、住んでいる町民を町外の方に見てもらいたい。都会の人をターゲットに交流しながら、是非、福島町に来ていただきたい。交流を深めおもてなしをして、付き合っ、福島町に滞在してもらいたい。短期でも良いので定住もしてもらいたい。色々な知恵も出していきたい。交流人口を増やしていきたい。こういう形で観光を絡めて考えています。」と快活に答弁しています。新道の駅について、町は新幹線開業に合わせない形で、先送りを決めたのだから、まずは上記や1の(1)を始めとして今できること・やらなければならないことをしっかりと行うことが必要ではないのでしょうか。それらが確立した後に、新幹線開業効果と照らしあわせて新道の駅の本質的な議論ができるのではないのでしょうか。資料や答弁からしても、開業効果がどうであっても、すでに新しい道の駅を建てる事ありきのような状態です。同時に現在の道の駅が本当に来訪者の利便性や地域活性化に支障があるのかきちんと検証して判断することが必要と考えます。

なお、開業効果に伴う一時的な観光客増加があるやもしれないが、それだけが開業効果ではないことを申し添えておく。

#### **(5) 健康関係**

各種ガン検診の受診率向上に向けては、検診の大切さを受診者の体験談的なコーナーを町広報紙に設けるなど積極的なPRに努めていただきたい。

#### **(6) 環境・ゴミ関係**

資源循環型社会の推進にあたり、ゴミの減量化等も含めてゴミ減量化推進委員会と先進自治体の取り組み事例を参考にしながら、積極的に事業展開をしていただきたい。

#### **(7) 子育て支援**

現在計画中の吉岡総合センター（仮称）を活用したゆりっこ広場の開催計画については、高齢者や地域住民との交流も含めた事業内容の展開による子育て支援の充実に繋げるよう努めていただきたい。

#### **(8) 河川整備**

人家から離れている普通河川の状況をきちんと確認し、下流に住んでいる住民の生命・財産に被害が及ばないように適切に対策を講じていただきたい。